

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-163289

(P2004-163289A)

(43) 公開日 平成16年6月10日(2004.6.10)

(51) Int. Cl.<sup>7</sup>

F 1

テーマコード (参考)

G 0 4 B 47/00

G 0 4 B 47/00

F

B 4 2 D 15/00

B 4 2 D 15/00

3 O 1 A

G 0 9 F 15/00

G 0 9 F 15/00

Z

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2002-330013 (P2002-330013)  
 (22) 出願日 平成14年11月13日 (2002.11.13)

(71) 出願人 397023309  
 株式会社エヌディーシー・グラフィックス  
 東京都中央区銀座1-13-13  
 (74) 代理人 100068618  
 弁理士 粂 経夫  
 (74) 代理人 100093193  
 弁理士 中村 壽夫  
 (74) 代理人 100104145  
 弁理士 宮崎 嘉夫  
 (72) 発明者 中川 憲造  
 東京都中央区銀座1-13-13 株式会  
 社エヌディーシー・グラフィックス内

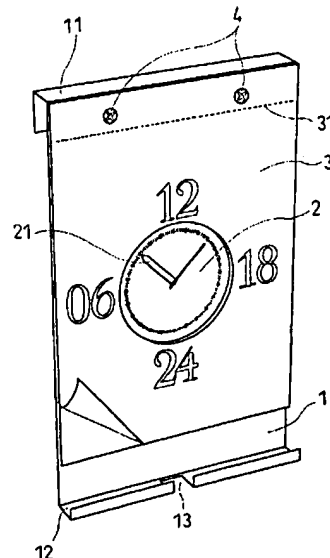
(54) 【発明の名称】 スケジュール時計

## (57) 【要約】

【解決手段】 壁掛けや机上的における形に成形されたプラスチック板やアルミ板などからなる基板1と、この基板1の表面に取り付けられた時計2と、この時計2を挿入できる大きさの孔を開けたメモ用紙3とからなることを特徴とするスケジュール時計。

【効果】 時計の針の指し示す位置に予定を書き込むので、その日の予定が視覚的に一目でわかり、時計と連動することで約束の時間を忘れることを防げる。また、受けた電話の内容など時計に合わせてメモすることができるので、後日の確認も容易であるなどの利点を有する。

【選択図】 図1



## 【特許請求の範囲】

## 【請求項 1】

壁掛けや机上における形に成形されたプラスチック板やアルミ板などからなる基板と、この基板の表面に取り付けられた時計と、この時計を挿入できる大きさの孔を開けたメモ用紙とからなることを特徴とするスケジュール時計。

## 【請求項 2】

プラスチック板やアルミ板等の板からなる基板が、上端を基板の裏面側に下方に向けて開口した端面コ字形に折り曲げて壁掛け部を構成し、下端を基板の前面側に上方に向けて開口した端面コ字形に曲げて筆記具等の受け皿部が形成された形状で、基板のほぼ中央部に時計が装着され、基板面に前記時計を挿入できる孔を開けたメモ用紙の冊子を取り付けられた請求項 1 記載のスケジュール時計。

10

## 【請求項 3】

時計が 1 回転に 24 時間を要する 24 時間時計である請求項 1 記載のスケジュール時計。

## 【請求項 4】

メモ用紙に時計の針に合わせて放射線状の罫線と同心円状の罫線を設けたことを特徴とする請求項 1 記載のスケジュール時計。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

## 【発明の属する技術分野】

本発明は、スケジュールが書き込めるメモ付き時計に関するものである。

20

## 【0002】

## 【従来の技術】

プラスチック板や厚紙などの表面に一端が糊付けされた冊子状のメモ用紙を取りつけた台紙付きメモ用紙は従来より使用されている。この種のメモ用紙のなかには、罫線などのほかに暦や時刻などが印刷されたものもあるが、書き込んだ 1 日のスケジュールを的確に認識できるように考案されたものはない。そのため、メモ用紙に折角記入してもその時刻になすべき約束事が見過ごされることはしばしばあることである。

## 【0003】

## 【発明が解決しようとする課題】

本発明は、メモ用紙上に記載したスケジュールを時計の針が指示することによって、容易にその時刻になすべき事項を認識できるようにしたスケジュール時計を提供することを目的とするものである。

30

## 【0004】

## 【課題を解決するための手段】

本発明のスケジュール時計は、壁掛けや机上における形などに成形されたプラスチック板やアルミ板などからなる基板と、この基板の表面に取り付けられた時計と、この時計を挿入できる大きさの孔を開けたメモ用紙とからなるものである。

## 【0005】

## 【発明の実施の形態】

本発明の基板は、プラスチック板やアルミ板などの金属板を成形して作られ、形状としては、壁に掛けられるように上端を折り返した形状に成形するとか、また、上端部に壁掛け用の孔を設けるとか、更には鎖や紐などで壁に取りつけられたフックなどに掛けられるようにしてもよい。このほか、机の上に置けるように上下の端部を裏側に向けて折り曲げた形としてもよい。壁掛け用とするときは、下端を前方に折り曲げて槌状の鉛筆等の筆記具が置ける受け皿を設けるとよい。

40

基板への時計の取り付けは、通常、基板の表面に載置するように装着するが、基板に時計用の孔を設け、この孔内に時計を嵌めこみ固定する方法によって取り付けてもよい。

## 【0006】

基板に設ける時計は、円形、四角形等、特に限定されないが、時計の針が回転してメモ用紙上に記載されたスケジュールを指し示すようにするため、円形の時計が好ましい。時計

50

は従来のアナログ時計（機械的時計）が好ましいが、針が回転するように表示される液晶時計（デジタル時計）でもよい。

時計は従来のものと同様に、短針と長針を備えた時計でもよいが、メモ用紙に記載されるスケジュールの多くは分単位のもは少ないことから、時を知らせる針（短針：時計）のみとしてもよい。時計のみのときは、記載したスケジュールを明確に示せるように長い大きな針とするとよい。

メモ用紙には、1日の予定を書き込むことから、時計は従来の1回転が12時間のほかに、1回転が24時間の時計を用いてもよい。時計は、アラームがなるようにしてもよい。

#### 【0007】

基板上に載置するメモ用紙は、ほぼ中央部に時計が入る穴を設けた用紙で、1枚ずつのものを重ねて載せるようにしてもよいが、通常は1週間分、1か月分などの枚数を冊子状にまとめたものが使用される。この冊子は通常メモ用紙と同様に上端が糊付けされた形のもので、上端部に設けたビス穴によって基板にネジ止めされ、1枚ずつ引き剥がすようにするか、必要ならば上端部に設けた切り取り用のミシン目によって切り離すようにしてもよい。このほか、上端部の裏面にスティック糊のように引き剥がして再接着できる粘着剤を塗布したメモ用紙の冊子を基板上に貼り付けるようにしてもよい。

#### 【0008】

メモ用紙には、時計の針の回転に合わせて、数字を書き込んでおくとか、コーヒーカップやナイフとホークなどを印刷しておいてもよい。しかしながら、スケジュールを書き込み易いように時計の針の延長線となるように放射状に罫線を設けてもよい。放射状の罫線は、時計を中心に円を12等分するものでなくとも、6等分、4等分するように設けてもよい。また、この放射状の罫線には、時計に近いほうから遠い方に向けて15分、30分、45分のように「分」を示す印を付けてもよい。「分」を表す印の代わりに時計を中心に「分」を表す同心円の罫線を設けてもよい。

1回転が12時間の時計の場合には、罫線を色分けして、例えば午前は薄い青線で、午後は薄い赤線とするなどとするともよい。

#### 【0009】

##### 【実施例】

以下に本発明の実施例を図面にしたがって説明するが、本発明はこれらに限定されるものではない。

#### 【0010】

図1は、本発明のスケジュール時計の一実施例を示す斜視図で、1は基板、2は時計、3はメモ用紙を示す。図に示すように、基板1は上端が基板の裏面側に下方に向けて開口した端面コ字形に折り曲げられて壁掛け部11を構成し、下端は基板の前面側に上方に向けて開口した端面コ字形に曲げられて筆記具等の受け皿部12が形成されている。図中、13は筆記具等が取り易いように設けた切欠き、21は時計の針（時計）である。

この実施例の場合、時計は24時間時計なので時計の周囲に相当するメモ用紙上には6時間おきの時間が印刷されている。メモ用紙3は基板1上に、用紙3の上端部に設けたビス孔にネジ4によってネジ止めされており、使用後は切り取り用のミシン目31によって切り離され、次のメモ用紙が現される。

このスケジュール時計は基板の上端の壁掛け部11によって、例えば、ホワイトボードや事務室の仕切り（パーティション）などに掛けて使用される。

#### 【0011】

図2は、本発明の分解斜視図で、時計2が取り付けられた基板1とメモ用紙3の冊子を示す。図中、14は基板1に設けられたビス孔で、メモ用紙3をネジ4で止めるのに用いられる。32はメモ用紙3に設けられた時計用の孔である。

図3は、メモ用紙の他の例で、時計の針に合わせてティーカップ等を印刷した例である。図中、33は基板1にネジ止めするためのネジ4を通すための挿通孔である。メモ用紙3を上端部の裏面に粘着剤を塗布したものとしたときは、ネジ止めすることなく、基板上に前記挿通孔33に差し込めるピンを設け、このピンにメモ用紙3の挿通孔33嵌めるだけ

でもよい。

図 4 は、メモ用紙 3 面に設ける罫線の一例で、時計の針に合わせた点線で示される放射状の直点線 5 1 は時間を示す罫線で、同心円状の円点線 5 2 は「分」を示す罫線を示す。この例に限らず、他の適切な方法で罫線を設けてよい。

#### 【0012】

##### 【発明の効果】

本発明のスケジュール時計は、予定を書き込む手帳と時計の機能が一体型になったもので、任意の大きさのものとすることができる。1 日の予定や記憶しておくべきこと等を時間にあわせて自由にスケジュールペーパー（メモ用紙）に書き込んでいくことができ、上記のとおりメモ用紙に記載したスケジュール等が時計の針によって指し示され、特に重要なものにはアラーム等がなるので、その日の予定を誤ることがない。時計の針の指し示す位置に予定を書き込むので、その日の予定が視覚的に一目でわかり、時計と連動することで約束の時間を忘れることを防げる。また、受けた電話の内容など時計に合わせてメモすることができるので、後日の確認も容易であるなどの利点を有する。

10

1 日が終わったら、ページをめくって次のメモ用紙に書き込む。メモ用紙は、基板にビスでネジ止めしているので、なくなったらシステム手帳のようにリフィルを付け替えて使用することができる。

時計の針は、特別大きくするとか、特に目立つ色彩とするとかすることによってより効果を確実なものとするることができる。時計を、24 時間で 1 回転する 24 時間時計とすることにより、1 日の予定をも書き込むことができるなど種々の利点を有する。

20

##### 【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の一実施例を示す斜視図である。

【図 2】本発明の他の実施例の分解斜視図である。

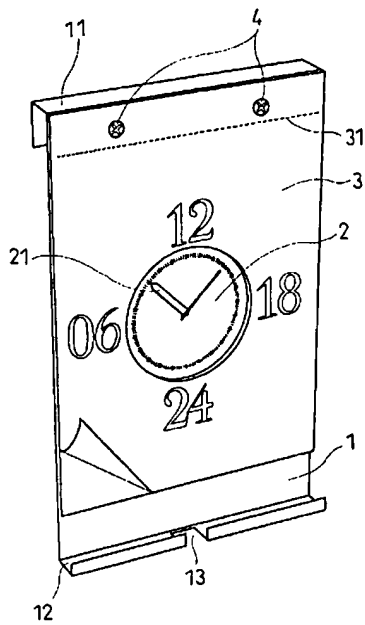
【図 3】メモ用紙の一例を示す斜視図である。

【図 4】メモ用紙の罫線の一例を示す正面図である。

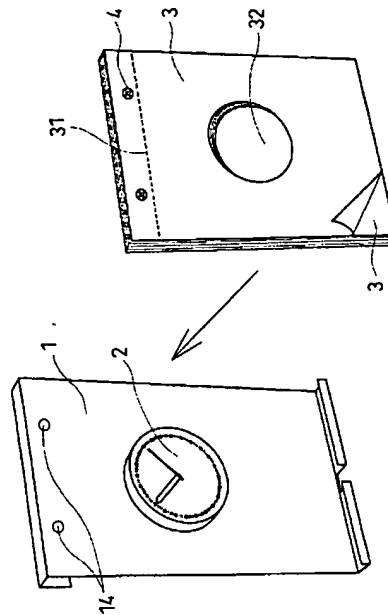
##### 【符号の説明】

- 1 基板
- 2 時計
- 3 メモ用紙

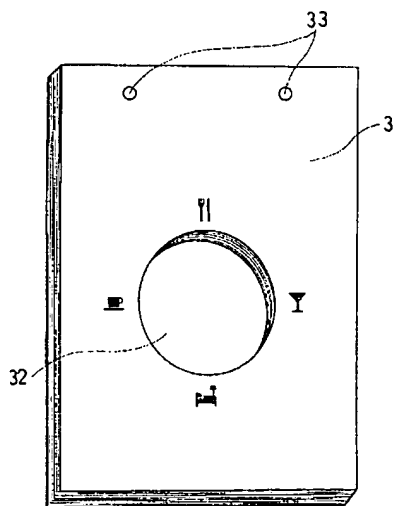
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【図 4】

